

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02930

研究課題名（和文）3ラウンドの理論に基づく教材開発と評価システムの構築

研究課題名（英文）Producing e-learning Materials Based on 3 Round Theory, and Its Evaluation System

研究代表者

小笠原 真司 (OGASAWARA, Shinji)

長崎大学・言語教育研究センター・教授

研究者番号：7023393

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：千葉大学名誉教授竹蓋幸生氏の提唱した3ラウンド理論に基づき、英語教育用動画 e-learning 教材『Scotland Tour』を完成した。3ラウンドとは教材を3つのステップにわけ、徐々にリスニング力を高める方法である。この教材は、主にリスニング力の向上を目指したものであるが、同時に内容統合型の教材でもある。学習者は、Scotlandの文化、歴史、地理、偉人を楽しみながら学ぶことができる。

舞台は古き良き都エジンバラと南西部の町ダンフリースで、人物としてRobert Burns やタイタニック号の楽団員Jock Humeが登場している。また、それらの人物に関連した原書の翻訳も出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

3ラウンド理論に基づく動画e-learning教材は多数存在するが、舞台の中心がアメリカ合衆国や英国イングランドであるものが多い。本研究は、World Englishesの観点から、英国スコットランドを舞台として選んだ動画教材である。また、同時に本格的な内容統合型の教材を目指し、英語を学びながら、スコットランドの文化、歴史、地理さらにはゆかりの人物を学ぶことができるように工夫がなされている。また、教材制作のために利用した、タイタニック号の楽団員関係の原書を翻訳書として上梓した。『タイタニック号の若きヴァイオリニスト』と『タイタニック号の永遠の讃美歌』は楽団員関係の本邦初の翻訳書である。

研究成果の概要（英文）： In this project, video e-learning materials named "Scotland Tour" have been produced, based on the 3 Round Theory proposed by Chiba University Professor Emeritus TAKEFUTA, Yukio. In the 3 Round Theory, an e-learning material has been divided into 3 steps and learners gradually improve their listening skill step by step. "Scotland Tour" is not only listening-focused but also has content-based material. By using and enjoying this video e-learning material, learners learn culture, geography and characters.

This material was recorded in Edinburgh and Dumfries in Scotland. The characters who appear in this material are Robert Burns, the very famous poet and Jock Hume, a Titanic band member. Two original English books, having much to do with these persons, have been translated by lead researcher.

研究分野：応用言語学、英語教育学、翻訳論

キーワード：3ラウンド理論 動画e-learning教材 スコットランド 内容統合型 タイタニック号事故 3Step リスニング力 World Englishes

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 千葉大学名誉教授、竹蓋幸生氏が提唱した3ラウンド理論に基づく動画教材は、千葉大学の研究グループを中心に、数多く制作されていたものの、大学をテーマにしたものは、アメリカ合衆国の西海岸の大学等に限定されていた。そのため、本研究代表者を中心とする科研グループでは、2013年～2016年の科研を利用して、アメリカ東海岸のMITとハーバード大学にて動画撮影を行い、『Campus Tour』を完成させた。その時の課題として、さらに英国の大学を舞台にした教材の制作を検討していた。

(2) 3ラウンド理論に基づく教材、あるいは他の英語教材においても、英国関係の教材のほとんどが英国イングランドを舞台としたものが多い。World Englishesの視点からも、英国のその他の地域を舞台とする3ラウンド理論に基づく教材が必要と思っていた。特に、英国のスコットランドを舞台とした教材の制作に必要性を感じていた。

(3) 最新の語学教育理論では、いわゆる英語を学ぶための英語教材ではなく、内容統合型教材の重要性が強調されている。すなわち、専門的内容を英語で学ぶという考えで、それによって英語力を効率的に高めることができるという理論である。本科研グループも、そのような教材の必要性を感じていた。スコットランドを舞台にした内容統合型教材を制作する方向で検討したが、その場合、文化、地理、あるいは代表的な人物などの背景知識が必要だった。そのため、教材の舞台として予定していた、スコットランドのエジンバラ、およびダンフリースに關係する人物の書籍を集め、必要に応じて翻訳を行うことも視野に入れた。

### 2. 研究の目的

(1) 千葉大学名誉教授、竹蓋幸生氏が提唱した3ラウンド理論に基づく教材を、本科研グループはさらに改良を加え、本学独自の教材、CALL教材3STEPシリーズを考案した。すでに、アメリカの大学生活や大学の様子を英語で学ぶ『Campus Tour』は完成していたので、さらなるシリーズ化のためにも、次の作品の制作が必要だった。

(2) 2作目の作品として、スコットランドの文化、歴史、地理、そして代表的な人物などを扱う教材制作を開始した。場所としては、コロナ禍で英国出張がなかなかできなかったこともあり、エジンバラとダンフリースにしぼった。また、人物として、スコットランドの有名な農民詩人 Robert Burns とタイタニック号事故で乗客のパニックを防ぐため最期まで演奏を続けた楽団員 Jock Hume を選んだ。

この2名のスコットランド人についての書籍を集めたが、当時無名だった Jock Hume に関しては、関連書籍の翻訳にも取り組む必要があった。内容統合型にふさわしい教材として、英語学習とともに、スコットランドへの理解が深まることを期待した。

また、エジンバラでは、その古き良き都の歴史に関する内容を取り上げるとともに、エジンバラ大学の学生にも協力を求め、彼ら彼女らの学生生活の様子も紹介し、大学生がとりつきやすい教材という側面も大切にしたい。

### 3. 研究の方法

(1) 2018年にカナダ、2018年、2019年に英国スコットランドにて、教材制作に必要な動画撮影、写真撮影を行った。

2018年9月には、カナダ、ノヴァスコシア州のハリファックスに赴いた。当地は、タイタニック号の犠牲者の遺体が収容され埋葬されたところである。特に大西洋海事博物館では動画教材制作に必要な資料収集を行った。

同じく2018年11月には、Jock Humeの故郷、英国スコットランドのダンフリースを訪れた。当地では、Jockの出身の学校や図書館を訪れ、資料収集するとともに、Jock Humeに関して動画にて語れる数名に出演を依頼した。

2019年には、スコットランドのエジンバラを訪問した。エジンバラ市内にて、市の歴史を語れる人に動画出演をしてもらうとともに、エジンバラ大学では、大学生数人に動画出演してもらい、大学生活を語ってもらった。また、その後、ダンフリースを再訪し、図書館やロバート・バーンズセンターなどで、Jock Hume や Robert Burns を語れる司書や学芸員に、動画出演をお願いした。

帰国後、彼らの彼女らが出演した動画データを整理し、英文のスク립トを作成し、さらにそれらを動画 e-learning 教材にできるようにユニット構成を考え、教材用のタスクなどを数多く作成した。最終的に動画教材と学習用のタスクをプログラミング化し、CD-Rの形で制作した。

(2) Robert Burns に関しては、日本においても多少の資料は手に入るものの、タイタニック号の楽団員 Jock Hume に関しては資料が皆無であった。当地ダンフリースにて多少の資料は手に入

ったものの、数に限りがあった。そのため、英国にて手に入れた2冊の原書を参考にすることとし、制作する動画教材でも解説の手助けになるように、翻訳をすることにした。原書のタイトルは、Christopher Ward 著の *And The Band Played On* と Yvonne Carroll 著の *A Hymn For Eternity* である。

#### 4. 研究成果

(1) 3ラウンド理論を応用した、英語教育用動画 e-learning 教材『Scotland Tour』を完成させた。前作に続き、学習者のターゲットは大学教養課程の学生であるが、一般社会人にも使用できる内容の教材とした。英語のレベルは初中級である。単なるリスニング教材ではなく、内容統合型の教材にふさわしく、スコットランドの文化、エジンバラやダンフリースの歴史地理、さらに詩人 Robert Burns やタイタニック号の楽団員 Jock Hume について学ぶことができる。しかも、これまで日本ではあまり知られていなかった情報も満載の内容となった。

3ラウンド理論による教材は、英語が話されている動画を利用し、リスニングスキル向上のための STEP を3段階踏むことにより、徐々にリスニングスキルをのばせるように工夫がなされている。また、使用教材に採用される動画の音源は、Authentic なもので、言い誤りや様々なノイズも入ったまさに生の英語である

今回の『Scotland Tour』の制作でも、そのような点を踏まえ制作しており、モニターとして使用した大学生や大学院生からは、実際に話される英語に最初は苦労したが、最終的には聞き取りやすくなったとの感想をいただいている。

『Scotland Tour』は、4 unit から構成されている。Unit1 は、エジンバラ大学の学生へのインタビュー、Unit2 は、エジンバラ市を語る地元の人や旅行者、Unit3 はダンフリースでの録画で、タイタニック号の楽団員 Jock Hume を知る人や学芸員による、タイタニック号と Jock Hume の人生、Unit 4 はダンフリースの図書館や博物館の学芸員による、ダンフリースの歴史と Robert Burns の人生、となっている。全体的に、内容統合型の英語動画教材にふさわしい内容となった。

教材は CD-R 版で 100 枚作製し、学内で使用するとともに、学内外の教職員で希望者には配布できる体制にしている。

(2) 教材『Scotland Tour』の制作と並行して、教材制作の紹介、あるいは、教材の使用効果、さらには、教材の内容そのものに関する研究など、研究成果を学会等で発表してきた。

代表的な論文としては、「英語 e-learning 教材必修化が大学生の英語学習に与えた影響 2 回の質問紙調査を用いた主成分分析の結果よりー」(2017) *Annual Review of English Learning and Teaching* No.22 (査読付き) や「英語教科書におけるノンフィクション教材の扱い方 タイタニック号の真実と脚色」(2022) *Studies in English Teaching and Learning in East Asia* No.8 (査読付き) などがある。

(3) 教材で取り上げた人物 Jock Hume 関係の翻訳として、以下の2冊を英宝社より上梓した。

『タイタニック号の若きヴァイオリニスト』(原書 *And The Band Played On*)、『タイタニック号の永遠の讃美歌』(原書 *A Hymn For Eternity*)。タイタニック号関係の原書の日本語翻訳書は数冊あるが、タイタニック号の楽団員にフォーカスした翻訳書としては、この2冊は本邦初であり、タイタニック号の研究者に多くの情報を提供できる翻訳書でもある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 小笠原真司	4. 巻 No.8
2. 論文標題 英語教科書におけるノンフィクション教材の扱い方-タイタニック号の真実と脚色-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Studies in English Teaching and Learning in East Asia	6. 最初と最後の頁 29-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣江顕、小笠原真司	4. 巻 38
2. 論文標題 小学校におけるパフォーマンス評価の可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要	6. 最初と最後の頁 129-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小笠原真司	4. 巻 7
2. 論文標題 e-learning教材Campus Tour改訂版の作成と3-STEP付属テストの開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 長崎大学言語教育研究センター論集	6. 最初と最後の頁 51-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小笠原真司・宇都宮譲・丸山真純	4. 巻 22
2. 論文標題 英語e-Learning 教材必修化が大学生の英語学習に与えた影響-2回の質問紙調査を用いた主成分分析の結果より-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Annual Review of English Learning and Teaching	6. 最初と最後の頁 71-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 丸山真純・小笠原真司・宇都宮謙	4. 巻 6
2. 論文標題 一般化線形モデル (GLM) によるG-TELPスコアからTOEICスコアの 推定モデルの構築：長崎大学学生の2011年から2016年のデータから	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 長崎大学言語教育研究センター論集	6. 最初と最後の頁 33-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 小笠原真司
2. 発表標題 ノンフィクション教材は、どこまで脚色や潤色が許されるのかータイタニック号事故における虚構と真実ー
3. 学会等名 JACET (大学英語教育学会) 第61回国際大会 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小笠原真司
2. 発表標題 英語教科書におけるノンフィクション教材の扱い方-タイタニック号の真実とはー
3. 学会等名 大学英語教育学会 (JACET) 九州・沖縄支部第32回支部研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 丸山真純、小笠原真司
2. 発表標題 習熟度別英語クラスの英語スコアの伸長ーある大学の事例から
3. 学会等名 大学英語教育学会 JAAL-in-JACET (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥田阿子
2. 発表標題 難しい内容に挑戦するための授業設計 反転授業の可能性
3. 学会等名 The 31st Conference of JACET Kyushu-Okinawa Chapter
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小笠原真司
2. 発表標題 言語教育における協同性の実現
3. 学会等名 JACET第29回九州・沖縄支部研究大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 小笠原真司（原著者、イヴォンヌ・キャロル）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 英宝社	5. 総ページ数 301
3. 書名 タイタニック号の永遠の讃美歌	

1. 著者名 小笠原真司、奥田阿子、Collins William、廣江顕、木戸康人	4. 発行年 2021年
2. 出版社 英宝社	5. 総ページ数 70
3. 書名 Talking About Our Campus	

1. 著者名 小笠原真司 (原著者、クリストファー・ワード)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 英宝社	5. 総ページ数 420
3. 書名 タイタニック号の若きヴァイオリニスト-それでも僕は弾き続ける	

1. 著者名 小笠原真司・廣江顕・松元浩一・谷川晋一・稲田俊一郎・徐佩伶・水本豪・團迫雅彦・隈上麻衣・古村由美子・丸山真純・大橋絵理・大谷英理果・奥田阿子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 英宝社	5. 総ページ数 181
3. 書名 外国語の非 - 常識 - ことばの真実と謎を追い求めて -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	丸山 真純 (MARUYAMA Masazumi)  (00304923)	長崎大学・経済学部・准教授  (17301)	
研究分担者	宇都宮 譲 (UTSUNOMIYA Yuzuru)  (60404315)	長崎大学・経済学部・准教授  (17301)	
研究分担者	廣江 顕 (HIROE Akira)  (20369119)	長崎大学・言語教育研究センター・教授  (17301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奥田 阿子  (OKUDA Ako)  (60631249)	長崎大学・言語教育研究センター・助教   (17301)	
研究分担者	コリンズ ウィリアム  (WILLIAM Collins)  (10346942)	長崎大学・言語教育研究センター・准教授   (17301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関